

曲や演奏のよさなどを見だし、

曲全体を味わって聴くことのできる児童の育成

—音楽を形づくっている要素を手掛かりに繰り返し聴き音楽の特徴を確かめる活動の工夫—

特別研修員 音楽 金井 美季 (小学校教諭)

【児童の実態】

- ・「楽しい曲」「明るい曲」「速い曲」など、曲を聴いて感じたことが、表層的な捉え方に留まってしまうことが多い。
- ・音楽を形づくっている要素の働きがどのような面白さ、美しさを生み出しているかについて考えたり、言葉で表したりすることが苦手。

【教師の願い】

音楽を形づくっている要素の働きがどのような面白さ、美しさを生み出しているかについて考え、なぜ「楽しい曲」「明るい曲」「速い曲」なのか、特徴と関わらせながら曲全体を聴き、味わうことができる。



【めあて】旋律の特徴や曲のおもしろい所を見つけよう

実践例：第3学年

題材名「音の重なりを感じて合わせよう」

教材名「『アルルの女』第1組曲から かね」（ビゼー作曲）

音楽を形づくっている要素

旋律 反復 音の重なり

【手立て1】 音楽の構造を可視化し、 曲想との関わりを捉える活動

図形楽譜を指でなぞる



うきうきした感じがしたのは、**旋律の動き**が上がったり下がったりしているからかな。

板書で曲の構造を確かめる



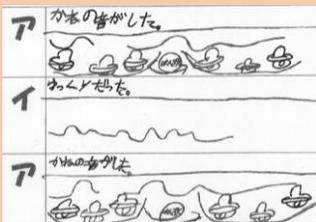
【アの部分】
二つの旋律が重なっている

【イの部分】
反復する音はなく、なめらかな旋律

なめらかな旋律と、三つの音が反復している旋律が出てくるね。旋律の重なり方が変化したから、雰囲気も静かになったのかな。

音の重なりがあると、より賑やかに感じるな。

気付いた特徴をワークシートに記入



【目指す児童の姿】



繰り返される三つの音が「かね」の音を表しているみたい。旋律の重なり方が変わり、なめらかで静かな場面を表しているところもこの曲のよいところだね。

【成果】

- ・時間とともに消えてしまう音楽を可視化したことで、音楽の構造を視覚と聴覚で確認することができた。
- ・身体表現しながら音楽を聴くことで、音楽を形づくっている要素の働きがどのような面白さを生み出しているか考えることができた。

【課題】

- ・知覚する活動が多かったので、音楽を聴き取ってイメージすることや感情と結び付けさせながら学習を深める必要がある。
- ・児童同士が関わり合う場を十分に設定して、協働して鑑賞する楽しさを味わえるようにする必要がある。



繰り返し聴き音楽の特徴を確かめる

【手立て2】 音楽に合わせて体を動かし、 音楽の特徴を確かめる活動

音の高さに合わせて手を動かす



三つの音の高さに合わせて手を動かしてみたら、「タンタンタン」と、ずっと繰り返していて、「かね」の音みたいな感じがしたよ。

指揮をしながら聴く

なめらかな旋律に変わったところから曲の雰囲気が急に静かになったよ。

パートごとに動きを変えて合わせる

一緒に動いてみたら、違う旋律が重なってもぴったり合うね。曲全体で重なり方に違いがあって面白いな。

